

こたばの力 からだの力 こころの力
園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 令和3年6月1日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

太陽の光を存分に受けて！
～ ぐんぐん育つ～

早くも梅雨入りです。園庭の「城南ファーム」では、トマトやおくら、ピーマン、イチゴ、さつまいもと、所せましと育て合っています。また、夏の代表花、あさがお、ひまわりも順調に芽を出して育ってくれています。

そして、園の主人公の子どもたちも、先生や友だちとの園生活を2か月過ごし、ぐんぐん育ってきています。見通しをもって園生活を安心して過ごす姿が見られました。中でも、年長児が年少児の着替えなど朝の身支度を手伝いに来てくれるなど、年長児の成長が著しく、異年齢による活動の大切さを改めて実感しています。

さて、一方、緊急事態宣言が6月20日まで延長され、感染症の拡大防止に対して一層の努力が求められています。子どもたちはマスクや手洗いをしながらも、豊かに関わり合って育ち合っています。

「感染症に罹らない」「感染症を拡大させない」との思いを共有していただき、例えば、ご家族の方の体調不良にもご留意いただき、念のため、自宅で待機することにもご協力いただきますようお願いいたします。

「ゆっくり大きくなってね」
～ 今、今を豊かに…～

年長児の誕生会ではお家の方からメッセージをいただきます。毎回、どのメッセージからも、誕生からこれまでの成長に対する喜びと感謝の気持ちが伝えられ、心温まるひと時です。

今回のメッセージでは「これからもゆっくり大きくなってね」との願いを伝えられた方がおられました。

慌てず、焦らせず、ゆっくりその子なりのペースで、今、今という子どもの時間を存分に味わいながら育てほしいとの願いです。いいお話、共感です。

「数概念の獲得」を促す
～ 豊かな保育活動～



本園での教育指針は、「小学校につながる確かな学びの基礎を培う幼児教育を展開することです。」

御承知のとおり幼児教育には「算数」という教科はありませんが、算数の学習の基礎となる活動は意識して意図的に豊かに埋め込ませています。

そのため、現在、大阪市内で使用されている小学校1年生算数の教科書には、本園での算数的(数学的)活動が紹介されています。(裏面を参照)

実は、私自身、長年小学校において算数教育を研究しており、その関連から、小学校1年生の算数の導入時に「さんすうのはじまり」という単元を創設するため、編集の協力をする運びとなりました。

本園では、3歳児から段階的に日常生活の中で、集めたり並べたり数えたりする経験を積み重ねながら、数概念の獲得を促しています。

例えば、3歳児では、4までの数の概念を具体的なものを数えることで獲得できることを目指しています。



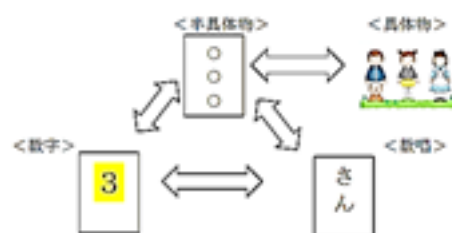
「何人かな？いっしょに数えようね。」
〇〇〇 に置き換えながら、1, 2, 3

「何人かな？「3人」なら数3の大きさを捉えていますが、中には、「1, 2, 3」と繰り返してみたり、「よにん」と次の数を言ったり、まだまだ不確かな状態が3歳児です。

1, 2, 3と指を折ってみたり、ドットに置き換えたりしながら、保育室での朝の会や職員室での出欠報告時に活動しています。

このように、幼児期にはできたりできなかつたりしながら、具体と抽象と行きつ戻りつの中で、数概念の

獲得が促されるような活動を展開しています。これも「ゆっくり」がポイントです。





本園で取り組んでいる実践的研究の一例です。



園内研究 指導内容 (3) 数概念の獲得の促進

園庭で「ひまわりを育てよう！」



5月10日 年長児

○ひまわりの種をみどり組の子どもたちと植えた。新井は大きな土袋を運ぶのも手伝ってくれた。「家でもお手伝いいっぱいやってる！」と教えてくれた。



プランターに土と腐葉土を入れて混ぜるところから皆でやった。準備できたプランターが3つ。ひまわりの種が16個だった。



T: 種はいくつあるかな？

子ども (1) : 1・2・3・・・16 やわ！

子ども (2) : いっぱいあるな～

T: ジャあ、プランターが3つあるけど、16個の種をどうやって植えようかな？

子ども (3) : 2個！

T: 2個だったら、(プランター指差して) 123456、6個だけ植えることができるね。

子ども (4) : 3個じゃない？(同上) 1～9、9個植えることができるね。

子ども (2) がスコップを持っていたので、**赤・黄・青のスコップを種の横においてプランターに例えられるようにした。**



T: これ(スコップ)がプランターだったら、皆だったら何個ずつ入れる？

子ども (1) がスコップの横に 1粒ずつ並べ始める。

周囲はそれを観察。

子ども (1) : できた。(5粒ずつ並べ終えて)

T: 1粒余ったね。

子ども (1) : そしたら、もうこれはここで

(赤いスコップの横に1粒置く)

T: ジャあ、6個、5個、5個で種を植えようか。

その後、植えて、水遣りまで皆で行った。

<考察>

16粒だったので、どうしようか悩んだ(割り切れない)が、久しぶりに子ども達とやってみたくいだったので、声を掛けた。子ども (2) と (3) は思いついた数をすぐに発言していたが、子ども (4) や (1) は思いのほか慎重派で、友達が口々に話す中でも黙り込んで考えている姿があった。

スコップをプランターに見立てることで、種を分けるという行為にいきついた。プランターの近くで行っていた場合また変化があったかもしれない。

分ける作業を楽しむ子どもと、早く植えたいと期待を膨らませる子どもとそれぞれで面白かった。最後に、**どの子どもも諦めず最後まで子ども (1) が分ける作業を見続けたこと、水遣りをして完了するまでできたことに感心した。**担任の先生にも報告した。

- 解説 -

小学校算数3年「わり算」の学習につながる基礎的な活動として貴重。分け方にはトランプ方式(等分除)と(包含除)がある。日常では余りのある方が自然である。16個程度ならこの取り扱い方で適切だといえよう。20までのいろいろなものを具体的に分ける経験を重ねたい。